

「医薬品に関する教育」についてのアンケート調査結果報告（全国）

日本学術振興会科学研究費補助金 事業

主任研究者：岐阜薬科大学実践薬学大講座病院薬学研究室教授 寺町ひとみ

研究分担者：岐阜薬科大学名誉教授 勝野眞吾

平成 20 年 3 月改訂の新学習指導要領では、医薬品に関する内容が中学校保健体育科保健分野に盛り込まれました。このような状況の中で、平成 24 年度に「医薬品に関する教育」が中学校の保健体育科の授業に導入されました。これまでに、現在の日本の医薬品に関する知識、態度、行動を明らかにするため、全国および岐阜市の児童生徒の「医薬品の正しい使い方」に関する知識・意識調査および指導実施状況調査を行いました。今回、全国の中学校における「医薬品に関する教育」の指導実施状況について調査しました。全国の中学校 524 校からご協力いただきましたことをお礼申し上げます。以下にアンケート調査結果についてご報告いたします。

1. 調査対象校

(1)抽出校および回収率

抽出数(校)	1091	全国の公立中学校 9784 校（2014 年全国学校総覧 2014 年版原書房）の 1 割の約 1000 校を対象とし、各都道府県の公立中学校から無作為に 1 割を抽出した。ただし、各都道府県、最低でも 10 校は抽出した。
回収数(校)	524	
回収率(%)	48.0	

(2)ブロック別回収率

n=522 (%)			
北海道	48.5	近畿(2府4県)	45.4
東北(6県)	49.5	中国(5県)	54.1
関東(1都6県)	45.8	四国(4県)	54.2
甲信越(3県)	48.1	九州沖縄(8県)	42.4
中部(7県)	52.8		

*2件無回答

全国の回収率は 48.0%で、全国を 9 ブロックに分けたところ、各ブロック別回収率では、全国とはほぼ同様の傾向を示した。

2. 調査実施時期

平成 26 年 10 月～平成 26 年 12 月

3. 回答者の担当(複数回答可)

	n=524 (%)	アンケートの回答者は養護教諭が 52.3%と最も多く、次いで、保健体育科教員が 39.3%であった。
管理職	17.2	
学級担任	3.2	
保健体育科教員	39.3	
養護教諭	52.3	
その他	0.2	
無回答	1.0	

*その他1件(学年主任)

4. 保健体育科「医薬品についての授業」に関する質問

(1) 保健体育科「医薬品についての授業」の担当者（複数回答可）

	n=524 (%)	保健体育科の授業で「医薬品についての授業」を担当している教員・講師では、保健体育科教員が 91.8%と一番多かった。養護教諭が 6.3%、学校薬剤師が 8.4%と少なかった。その他では、外部講師が 0.6% (3 人)、教頭が 0.2%(1 人)であった。保健体育科教員のみでは 83.4%と多く、保健体育科教員と学校薬剤師では 5.9%と少なかった。
保健体育科教員	91.8	
養護教諭	6.3	
学校薬剤師	8.4	
その他	0.8	
無回答	4.4	

(2) 保健体育科「医薬品についての授業」の授業時間

総授業時間	n=524 (%)
50分未満	2.9
50分以上～100分未満	69.5
100分以上～150分未満	8.4
150分以上	2.1
その他	7.8
無回答	9.4

授業時間は、平均 49.6 分(10 分から 90 分)で、授業回数は平均 1.2 回(0.5 回から 5 回)であった。50 分が 80.5%で、1 回が 72.3%と最も多かった。

その他の回答では、保健等の授業で少し触れる程度が 1.7%、薬物乱用防止等で触れる程度が 1.3%、実施していないが 1.0%であった。

(3) 保健体育科「医薬品についての授業」の使用教材(複数回答可)

	n=524 (%)
教科書	84.9
日本学校保健会作成・配布の冊子	8.4
その他パンフレット冊子類	13.5
ビデオ	7.4
インターネットからのダウンロード資料	15.6
その他	8.4
無回答	6.1

授業で使用している教材については、教科書が 84.9%と最も多く、パンフレット冊子類が 13.5%、インターネットからのダウンロード資料が 15.6%であった。また、その他の回答では、教員が作成した資料が 1.5%、薬剤師など外部講師が作成した資料が 2.5%、保健の補助教材が 1.5%であった。

5. 保健体育科授業以外の「医薬品についての授業」に関する質問

(1) 保健体育科の授業以外で「医薬品についての授業」を行っているか(今年度中の予定を含む)。

	n=524 (%)
はい	17.6
いいえ	81.3
無回答	1.1

保健体育科の授業以外で「医薬品についての授業」を行っているとは、17.6%と少なかった。

(2) (1)で「はい」と回答した 92 人の回答結果

(2)-1 保健体育科以外で行っている「医薬品についての授業」の科目(複数回答可)

	n=92 (%)
総合的な学習の時間	30.4
理科	1.1
学級(ホームルーム)活動	20.7
学校行事	30.4
その他	17.4
無回答	3.3

総合的な学習の時間および学校行事がそれぞれ 30.4%と多く、学級(ホームルーム)活動が 20.7%であった。その他の回答では、薬物乱用防止教育が 4.3%、薬学講座が 3.3%、学年集会が 3.3%であった。

(2)-2 授業時間

授業時間についての回答は 30.4%で、平均 49.1 分(10 分から 90 分)で、授業回数は平均 1.2 回(1 回から 3 回)であった。講演会が 67.4%、その他が 3.3%、無回答が 2.2%であった。その他の回答では、学校保健委員会、薬学講座、飲酒・ドラッグなどの事件があった際随時がそれぞれ 1 件であった。

(2)-3 対象学年(複数回答可)

	n=92 (%)
1年生	65.2
2年生	47.8
3年生	62.0
無回答	3.3

対象学年では、1 年生が 65.2%、3 年生が 62.0%と多かった。

(2)-4 使用教材(複数回答可)

	n=92 (%)
教科書	2.2
日本学校保健会作成・配布の冊子	8.7
その他パンフレット冊子類	41.3
ビデオ	28.3
インターネットからのダウンロード資料	10.9
その他	39.1
無回答	6.5

使用教材については、パンフレット冊子類が 41.3%と多く、ビデオは 28.3%であった。また、その他の回答では、学校薬剤師など外部講師が作成した資料が 20.7%、教員が作成した資料が 6.5%であった。

(2)-5 担当者(複数回答可)

	n=92 (%)
保健体育科教員	5.4
養護教諭	21.7
学校薬剤師	62.0
その他	33.7
無回答	1.1

教員あるいは講師では、学校薬剤師が 62.0%と一番多く、養護教諭が 21.7%であった。保健体育科教員は 5.4%と少なかった。また、その他の回答では、警察官が 10.9%、外部講師が 7.6%であった。

(3) (1)で「いいえ」と回答した 426 人の回答結果

(3)-1 今後(次年度以降)の実施について

	n=426 (%)
予定あり	9.2
検討したい	43.0
予定なし・実施できない	46.2
無回答	1.6

保健体育科の授業以外で「医薬品についての授業」を行っていないと回答した学校では、次年度以降、予定ありが 9.2%と少ないが、検討したいが 43.0%であった。また、予定なし・実施できないが 46.2%であった。

6. 講演会および研修会に関する質問

(1) 医薬品についての授業は、教員が行うよりも、外部から講師を招いて講演会を開いた方が有効だと思うか。

	n = 52
はい	84.0
いいえ	13.5
無回答	2.5

職位別にみると、「はい」の回答で、保健体育科教員が 84.0% (173/206 人)、養護教諭が 84.3% (231/274 人) と同様の傾向を示した。

(2) 学校教員を対象とした、「医薬品の指導方法」に関する研修会があれば、積極的に参加したいと思うか。

	n=524 (%)
はい	72.1
いいえ	26.3
無回答	1.5

職位別にみると、「はい」の回答で、保健体育科教員が 71.4% (147/206 人)、養護教諭が 79.2% (217/274 人) と同様の傾向を示した。

7. まとめ

保健体育科の「医薬品についての授業」は、ほとんどの中学校では 50 分 1 回で保健体育科教員が担当しており、学校薬剤師の協力が少ないことがわかった。また、薬物乱用防止等の授業の中で「医薬品についての授業」を実施している、また、「医薬品についての授業」を実施していないことも明らかとなった。今後、「医薬品に関する教育」の位置づけについての啓蒙および専門家である学校薬剤師等の活用方法について、中学校の管理職および保健体育科教員を対象にした研修会や講演会等を企画していく必要がある。